



## (i) アイデア論

ソクラテス哲学の最大の理解者であり後継者であったプラトン。師匠の死を目の当たりにし、現実世界に失望する中で、ソクラテスの理想主義をさらに徹底していった。

# プラトン

■ ギリシャ (前427-347)

「学び」とは「想起」である



- ・主 著 『ソクラテスの弁明』『パイドン』『<sup>1</sup>』<sup>2</sup>』
- ・<sup>3</sup> ] (肉体関係から離れ、互いに精神的に高め合おうとする恋愛)の語源。
- ・プラトンは本名ではなく「肩幅が広い」という意味のあだ名であった。
- ・後に登場するアリストテレスと共に、西洋哲学に多大な影響を与えた人物として君臨。

### ■ アイデアを求めて

ソクラテスの死を目の当たりにし、師匠の理想主義をさらに徹底化。

「現実の世界には、変化を繰り返す不完全なものしかない。」→<sup>4</sup> ]

「現実世界は全て見せかけに過ぎない。もっと**完璧な不変不滅なもの** (= <sup>5</sup> ] )がある。」

→「現象界とは別に、永遠不変の理想の世界があるはずだ！」= <sup>6</sup> ]

= <sup>7</sup> ]

例えば、世の中には美しいと呼ばれる人がいる。

世界で最も美しい顔 100 選 (2023) での世界 1 位、日本人 1 位を並べてみたが、当然のごとく皆美人。

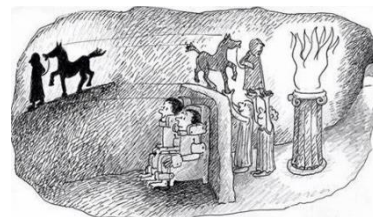
それでもプラトンによれば、これも偽物だという。

アイデア界に存在する“美人のアイデア”から、部分的に美人の要素を分け与えられている (= <sup>8</sup> ] ) に過ぎないと説いた。

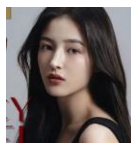
### ■ エロースとアナムネーシス

- ・<sup>9</sup> ] (<sup>10</sup> ) …人間の魂は本来、個々の事物を見るときに完全なものを思い出す性質
- ・<sup>11</sup> ] …魂が完全なものに憧れ、思い焦がれる性質

元々人間は完全なものを追い求めるはずなのに、それを忘れていないか？という警鐘を鳴らしていたんだね。その中で、彼が最高のアイデアと呼んだのが<sup>12</sup> ]であった。



- ・あらゆる事物の本質
- ・完全で不変不滅
- ・人間の感覚では捉えられない
- ・完全であるがゆえ美しい



ナンシー・ジュエル



サナ (TWICE)

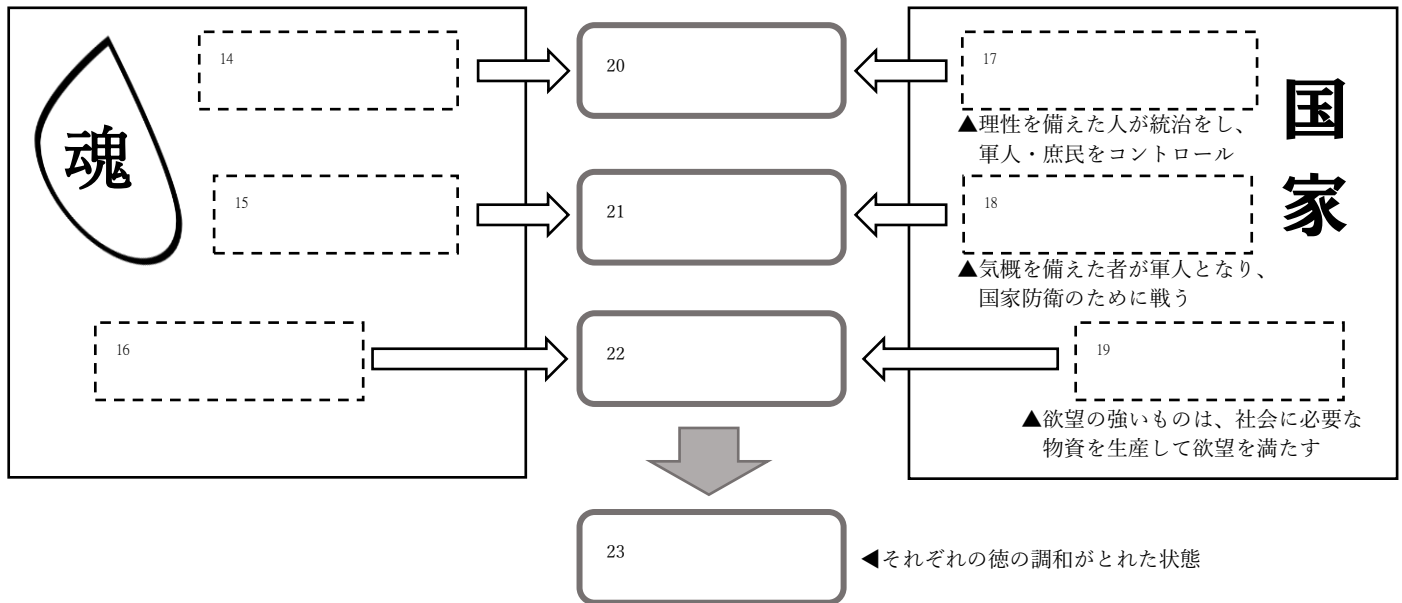
- ・不完全で大きく変化
- ・人間の感覚で捉えられる
- ・アイデアに比べて美しくない

## (ii) 四元徳と理想国家

プラトンは元々政治家志望であった。

この哲学で説いた持論を、最終的に国の在り方へと繋げていったのも彼の大きな功績である。

★ 魂の<sup>[13]</sup> ] …魂の三部分を国家の三階級が分担し、それぞれの徳を目指す理想的な国家となる



プラトンは魂を三つの要素に分け、それらをコントロールし、より善の方向へ向けていくことで三つの徳を実現させると説いた。そしてその三つの徳が調和したときに人間の魂は最も良い状態に置かれ、正義の状態となる。この四つの徳はまとめて<sup>[24]</sup> ]と呼ばれ、ギリシャ人の道徳性の基礎となった。

★<sup>[24]</sup> ] … 知恵のあるものが統治者だと良いので、統治者の理想を哲学者とする考え方

### Column 哲人政治の実践

プラトンはシチリア島の都市国家シラクサから政治顧問として招聘され、若き王の教育にあたった。対話などを通じて王の「魂を善く」しようと試み、数学や音楽を徹底的に学ばせた。しかし、政争が発生し王の能力不足が露呈。挫折したプラトンは失意のうちに帰国している。

★<sup>[25]</sup> ] 設立 … 哲学・数学の研究・教育を行う学園。

アテネ校外の森に設立し、全寮制で学生は共同生活を送り、<sup>[26]</sup> ]らが入学している。  
現在の大学組織の起源となっており、academic(正統な・学究的な)の語源となった。

### Column プラトニックラブとは

「プラトニックラブ」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。肉体的な欲求から離れた、精神的な恋愛のことで、現在でも「結婚するまでは肉体的な関係を求めない恋愛」という意味で使われている。お気づきの通り、この語源はプラトンにある。

しかし、プラトン自身は独身ではあったものの、純潔を守ったという訳では無い。彼は実は「男好き」であり、対象は「少年」であった。

「女性は同年代の男性を愛すると、肉体的な欲求が現われてしまう。だからより高次の精神的な愛を求めるのであれば、少年を愛すべき！」これが彼の持論であった。といっても、プラトンが異常だったという訳ではなく、当時のギリシャでは当たり前のことであった。

「女性は能力が低くパートナーにはふさわしくない」という風潮があり、男性同士で愛し合うとか、男性が男性を取り合って殺しあいをするとか、そんなことが普通の世界だったそうだ。古代ギリシャに生まれなくて良かった…。



(i) アイデア論

ソクラテス哲学の最大の理解者であり後継者であったプラトン。師匠の死を目の当たりにし、現実世界に失望する中で、ソクラテスの理想主義をさらに徹底していった。

## プラトン

■ ギリシャ (前427-347)

「学び」とは「想起」である



- ・主 著 『ソクラテスの弁明』『パイドン』『<sup>1</sup> 饗宴 』『<sup>2</sup> 国家 』
- ・<sup>3</sup> **プラトニックラブ** ] (肉体関係から離れ、互いに精神的に高め合おうとする恋愛)の語源。
- ・プラトンは本名ではなく「肩幅が広い」という意味のあだ名であった。
- ・後に登場するアリストテレスと共に、西洋哲学に多大な影響を与えた人物として君臨。

■ アイデアを求めて

ソクラテスの死を目の当たりにし、師匠の理想主義をさらに徹底化。

「現実の世界には、変化を繰り返す不完全なものしかない。」→<sup>4</sup> **洞窟の比喻** ]



「現実世界は全て見せかけに過ぎない。もっと**完璧な不変不滅なもの** (= <sup>5</sup> **アイデア** )がある。」

→「現象界とは別に、永遠不変の理想の世界があるはずだ！」= <sup>6</sup> **二元論** ]的世界観 (二世界論)

= <sup>7</sup> **アイデア界** ]

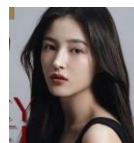
例えば、世の中には美しいと呼ばれる人がいる。  
世界で最も美しい顔 100 選 (2023) での世界 1 位、  
日本人 1 位を並べてみたが、当然のごとく皆美人。

それでもプラトンによれば、これも偽物だという。  
アイデア界に存在する“美人のアイデア”から、部分的に美人の要素を  
分け与えられている (= <sup>8</sup> **分有** ) に過ぎないと説いた。

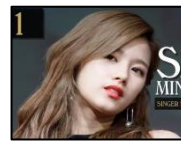


- ・あらゆる事物の本質
- ・完全で不変不滅
- ・人間の感覚では捉えられない
- ・完全であるがゆえ美しい

**アイデア界**



ナンシー・ジュエル



サナ (TWICE)

- ・不完全で大きく変化
- ・人間の感覚で捉えられる
- ・アイデアに比べて美しくない

**現象界**

■ エロースとアナムネーシス

- ・<sup>9</sup> **想起** ] (<sup>10</sup> **アナムネーシス** ) …人間の魂は本来、個々の事物を見るときに完全なものを思い出す性質
- ・<sup>11</sup> **エロース** ] …魂が完全なものに憧れ、思い焦がれる性質

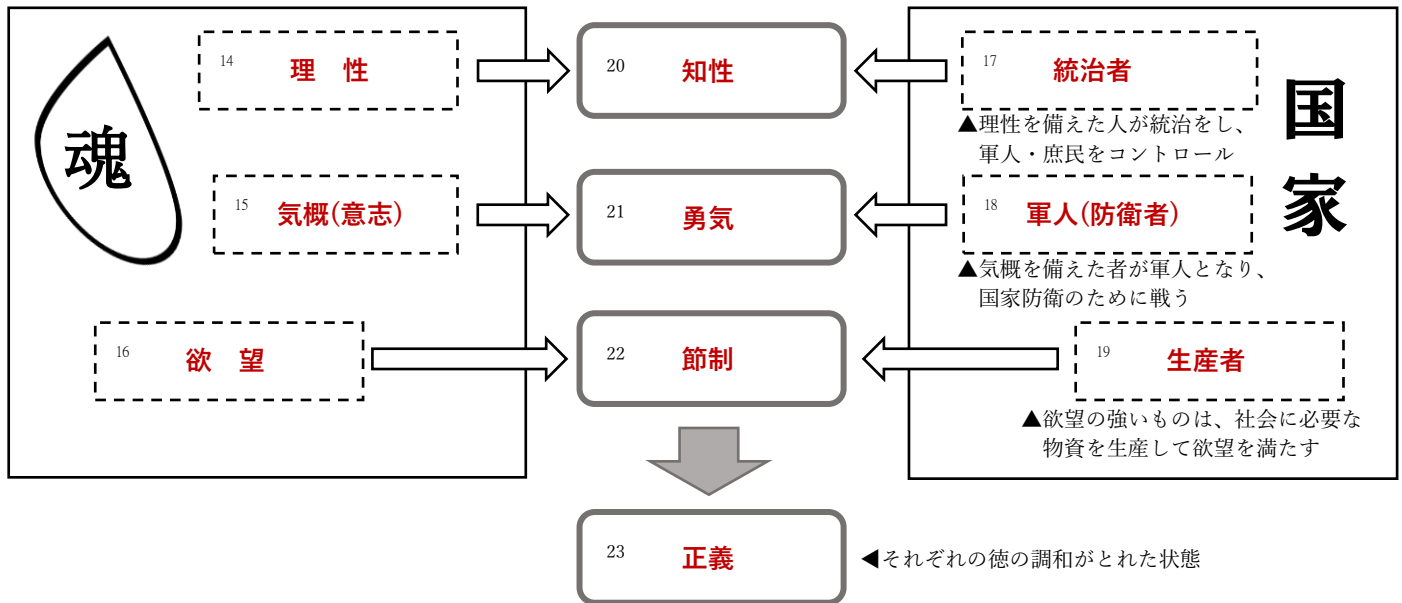
元々人間は完全なものを追い求めるはずなのに、それを忘れていないか？という警鐘を鳴らしていたんだね。  
その中で、彼が最高のアイデアと呼んだのが<sup>12</sup> **善のアイデア** ]であった。

## (ii) 四元徳と理想国家

プラトンは元々政治家志望であった。

この哲学で説いた持論を、最終的に国の在り方へと繋げていったのも彼の大きな功績である。

★ 魂の<sup>[13]</sup> 三部分説 ] …魂の三部分を国家の三階級が分担し、それぞれの徳を目指すと理想的な国家となる



プラトンは魂を三つの要素に分け、それらをコントロールし、より善の方向へ向けていくことで三つの徳を実現させると説いた。そしてその三つの徳が調和したときに人間の魂は最も良い状態に置かれ、正義の状態となる。この四つの徳はまとめて<sup>[24]</sup> 四元徳 ]と呼ばれ、ギリシャ人の道徳性の基礎となった。

★<sup>[24]</sup> 哲人政治 ] … 知恵のあるものが統治者だと良いので、統治者の理想を哲学者とする考え方

### Column 哲人政治の実践

プラトンはシチリア島の都市国家シラクサから政治顧問として招聘され、若き王の教育にあたった。対話などを通じて王の「魂を善く」しようと試み、数学や音楽を徹底的に学ばせた。しかし、政争が発生し王の能力不足が露呈。挫折したプラトンは失意のうちに帰国している。

★<sup>[25]</sup> アカデメイア ]設立 … 哲学・数学の研究・教育を行う学園。

アテネ校外の森に設立し、全寮制で学生は共同生活を送り、<sup>[26]</sup> アリストテレス ]らが入学している。現在の大学組織の起源となっており、academic(正統な・学究的な)の語源となった。

### Column プラトニックラブとは

「プラトニックラブ」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。肉体的な欲求から離れた、精神的な恋愛のことで、現在でも「結婚するまでは肉体的な関係を求めない恋愛」という意味で使われている。お気づきの通り、この語源はプラトンにある。

しかし、プラトン自身は独身ではあったものの、純潔を守ったという訳では無い。彼は実は「男好き」であり、対象は「少年」であった。

「女性や同年代の男性を愛すると、肉体的な欲求が現われてしまう。だからより高次の精神的な愛を求めるのであれば、少年を愛すべき！」これが彼の持論であった。といっても、プラトンが異常だったという訳ではなく、当時のギリシャでは当たり前のことであった。

「女性は能力が低くパートナーにはふさわしくない」という風潮があり、男性同士で愛し合うとか、男性が男性を取り合って殺しあいをするとか、そんなことが普通の世界だったそうだ。古代ギリシャに生まれなくて良かった…。